

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジノ ユキシカケン 学校法人 行吉学園									
フリガナ大学の名称	コベジョウダガクイフクガクイ 神戸女子大学大学院 (Kobe Women's University Graduate School)									
大学本部の位置	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号									
大学の目的	本大学院は、本学の建学精神に基づき、専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の向上進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	<p>看護学研究科では、本学の建学精神に則り、教育綱領に示す育成方針に沿って地域で活躍できる実践に裏打ちされた教育者、研究者や高度専門職業人を育成することで、社会に貢献することを目的とする。</p> <p>【博士前期課程】 建学の精神に則り、生命の尊厳への深い理解と実践科学としての看護の本質を探究する姿勢を育み、卓越した看護実践能力と研究能力の基盤を備えた看護職員または、高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>【博士後期課程】 建学の精神に則り、高い倫理観と高度な教育・研究能力を備え、研究活動を通して看護学の発展に寄与する看護系教育機関の教員・研究者または、保健医療福祉施設における実践者や管理者として、社会に貢献できる人材を育成する。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学研究科 〔Graduate School of Nursing〕	年	人	年次人	人		年月 第 年次	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号 同上	【基礎となる学部】 看護学部看護学科	
	看護学専攻博士前期課程 〔Master's Course of Nursing〕	2	8	—	16	修士(看護学)	平成31年4月 第1年次		14条特例の実施 昼夜開講制（昼間主、夜間主の 区別なし）	
	看護学専攻博士後期課程 〔Doctoral Course of Nursing〕	3	3	—	9	博士(看護学)	平成31年4月 第1年次		14条特例の実施 昼夜開講制（昼間主、夜間主の 区別なし）	
計		11	—	25						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	神戸女子大学 看護学部 看護学科〔定員増〕 (10) (平成31年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	36 科目	13 科目	7 科目	56 科目	40単位 30単位				
看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	9 科目	3 科目	0 科目	12 科目	14単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	人 13 (13)	人 3 (3)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 16 (16)	人 0 (0)	人 17 (10)	
	設	看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	人 13 (13)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 14 (14)	人 0 (0)	人 0 (0)	
分	計	13 (13)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	— —		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
既 員 組 設 の 概 分	家政学研究科	食物栄養学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		食物栄養学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		生活造形学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		生活造形学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	文学研究科	日本文学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		日本文学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		英文学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		英文学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		日本史学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
		日本史学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
		教育学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		教育学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻 (修士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	10 (10)
		計	45 (45)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	—
合 計			58 (58)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	71 (71)	0 (0)	—
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		62 (62)		48 (48)		110 (110)		
	技 術 職 員		5 (5)		13 (13)		18 (18)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		8 (8)		11 (11)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		17 (17)		17 (17)		
計			70 (70)		86 (86)		156 (156)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校舎敷地	60,601.00㎡	4,174.00㎡		17,849.56㎡		82,624.56㎡		
	運動場用地	9,999.00㎡	0.00㎡		6,675.28㎡		16,674.28㎡		
	小 計	70,600.00㎡	4,174.00㎡		24,524.84㎡		99,298.84㎡		
	そ の 他	75,023.61㎡	0.00㎡		0.00㎡		75,023.61㎡		
合 計		145,623.61㎡	4,174.00㎡		24,524.84㎡		174,322.45㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		45,742.13㎡ (45,742.13㎡)	7,085.46㎡ (7,085.46㎡)		23,954.49㎡ (23,954.49㎡)		76,782.08㎡ (76,782.08㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	43室	21室	39室		6室 (補助職員0人)		2室 (補助職員1人)		
神戸女子短期大学(収容定員680人、必要面積6,800㎡)と共用									
神戸女子短期大学(収容定員680人、必要面積5,400㎡)と共用									
大学全体									

専任教員研究室		新設学部等の名称				室数			
		看護学研究科 看護学専攻				16 室			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等の単位で 特定不能なため、 大学全体の数	
	看護学研究科 看護学専攻	290,000 [57,000] (285,091 [56,398])	5,100 [2,620] (5,052 [2,584])	2,145 [2,140] (2,133 [2,130])	3,200 (3,150)	6,143 (6,143)	19 (19)		
	計	290,000 [57,000] (285,091 [56,398])	5,100 [2,620] (5,052 [2,584])	2,145 [2,140] (2,133 [2,130])	3,200 (3,150)	6,143 (6,143)	19 (19)		
図書館		面積 1,967.78㎡		閲覧座席数 318席		収納可能冊数 110,000冊		神戸女子短期 大学と共用 (ポートアイランドキャン パス)	
体育館		面積 2,334.04㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート3面					
経費の見積り 及び維持方法 の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算 出不能なため、学 部との合計 図書購入費につ いては、電子ジ ャーナル、デー タベース、その 他の経費(運用 コストを含む) を含む
	教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		7,332千円	7,332千円	7,332千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費	11,166千円	8,309千円	6,372千円	5,764千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	14,990千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	—千円	—千円	—千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	950千円	750千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
	950千円	750千円	750千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						
大学の名称	神戸女子大学大学院								
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
家政学研究科 (博士前期課程)	年	人	年次 人	人	修士 (食物栄養学)	0.37	昭和59年度	兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号	
食物栄養学専攻	2	8	—	16					
生活造形学専攻 (博士後期課程)	2	6	—	12	修士 (生活造形学)	0.33	平成7年度		
食物栄養学専攻	3	2	—	6	博士 (食物栄養学)	0.33	平成元年度		
生活造形学専攻	3	2	—	6	博士 (生活造形学)	0.16	平成9年度		
文学研究科 (博士前期課程)	2	4	—	8	修士 (日本文学)	0.00	昭和61年度		
日本文学専攻	2	4	—	8	修士 (日本文学)	0.12	昭和61年度		
英文学専攻	2	4	—	8	修士 (日本文学)	0.75	昭和61年度		
日本史学専攻	2	4	—	8	修士 (教育学)	0.00	昭和62年度		
教育学専攻 (博士後期課程)	2	4	—	8					
日本文学専攻	3	2	—	6	博士 (日本文学)	0.00	平成5年度		
英文学専攻	3	2	—	6	博士 (英文学)	0.00	平成4年度		
日本史学専攻	3	2	—	6	博士 (日本史学)	0.16	平成3年度		
教育学専攻	3	2	—	6	博士 (教育学)	0.50	平成元年度		
健康栄養学研究科 (修士課程)								兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番2号	
健康栄養学専攻	2	4	—	8	修士 (健康栄養学)	0.87	平成28年度		

既設大学等の状況	大 学 の 名 称 神戸女子大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
	文学部	年	人	年次人	人		倍		
	日本語日本文学科	4	60	—	240	学士 (日本語日本文学)	1.08 1.11	平成18年度	兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号
	英語英米文学科	4	60	—	240	学士 (英語英米文学)	1.07	平成18年度	
	国際教養学科	4	40	—	160	学士 (国際教養学)	1.30	平成18年度	
	史学科	4	60	—	240	学士 (歴史学)	1.01	昭和44年度	
	教育学科	4	165	—	660	学士 (教育学)	1.05	昭和44年度	
	健康福祉学部						0.94		
	社会福祉学科	4	80	—	320	学士 (社会福祉学)	0.87	平成18年度	兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番2号
	健康スポーツ栄養学科	4	80	—	280	学士 (栄養学)	1.01	平成21年度	
	家政学部						1.07		
	家政学科	4	80	—	320	学士 (家政学)	1.07	昭和41年度	兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号
	管理栄養士養成課程	4	150	3年次10	600	学士 (栄養学)	1.07	昭和43年度	
	看護学部						1.11		
	看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.11	平成27年度	兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番2号
	大 学 の 名 称 神戸女子短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
	総合生活学科	2	120	—	240	短期大学士 (総合生活学)	0.76	平成8年度	兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番2号
	食物栄養学科	2	120	—	240	短期大学士 (食物栄養学)	0.79	平成8年度	
	幼児教育学科	2	100	—	200	短期大学士 (幼児教育学)	0.87	昭和30年度	
附属施設の概要	名 称 : ハワイセミナーハウス 目 的 : 国際交流の推進 所 在 地 : 1720 Young St. Honolulu 96826 Hawaii U.S.A 設置年月 : 平成元年6月14日 規 模 等 : 土地683.65㎡、建物1,074.67㎡								

平成30年度4月名称変更
神戸国際教養学科
→国際教養学科

平成29年度入学定員増
(20)

平成29年度入学定員増
(10)
平成29年度編入定員減
(△10)

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻 (M))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護教育論	1前		2		○			4						オムニバス方式	
	看護マネジメント論	1後		2		○			2						オムニバス方式・共同 (一部)	
	看護理論	1前	2			○			2						オムニバス方式・共同 (一部)	
	看護研究方法論Ⅰ	1前	2			○			2						オムニバス方式	
	看護研究方法論Ⅱ	1後		2		○			3						オムニバス方式・共同 (一部)	
	コンサルテーション論	1後		2		○			1					兼2	オムニバス方式・共同 (一部)	
	看護倫理展開論	1後		2		○			4						オムニバス方式	
	看護政策論	1後		2		○			2					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
	国際保健・疫学論	1後		2		○			1	1					オムニバス方式・共同 (一部)	
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			1					兼2	オムニバス方式・共同 (一部)	
	病態生理学	1前		2		○			2					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
	臨床薬理学	1後		2		○			1					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
小計 (12科目)		—	4	20	0	—			12	1	0	0	0	兼6	—	
専門科目	専門看護師コース	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		○			3						オムニバス方式・共同 (一部)
		慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		○			2					兼2	オムニバス方式・共同 (一部)
		慢性看護学方法論Ⅰ	1前		2		○			1					兼2	オムニバス方式・共同 (一部)
		慢性看護学方法論Ⅱ	1後		2		○			1					兼3	オムニバス方式
		慢性看護ケアシステム論	2前		2		○			1					兼2	オムニバス方式・共同 (一部)
		慢性看護実習Ⅰ	1後		4			○		1					兼4	共同
		慢性看護実習Ⅱ	2前		4			○		1					兼4	共同
		慢性看護実習Ⅲ	2前		2			○		1					兼3	共同
		小児看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	小児看護学特論Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	小児看護学方法論Ⅰ	1後		2		○			1					兼1	オムニバス方式	
	小児看護学方法論Ⅱ	2前		2		○			1							
	小児保健医療福祉論	2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス方式	
	小児看護実習Ⅰ	1後		2			○		1					兼1	共同	
	小児看護実習Ⅱ	1後		2			○		1					兼1	共同	
	小児看護実習Ⅲ	2前		4			○		1					兼1	共同	
	小児看護実習Ⅳ	2後		2			○		1					兼1	共同	
	研究コース	高齢者看護学特論	1前		2		○			1						
高齢者看護学対象論		1後		2		○			1	1				兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
高齢者看護学方法論		2前		2		○			1							
地域看護学特論Ⅰ		1前		2		○			1					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
地域看護学特論Ⅱ		1後		2		○			1					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)	
看護情報学特論		1前		2		○			1							
遠隔看護特論	1後		2		○			1								

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護実践デザイン特論Ⅰ	1前		2		○			2							オムニバス方式
	看護実践デザイン特論Ⅱ	1後		2		○			2							オムニバス方式・共同 (一部)
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1							兼3 オムニバス方式
	精神看護学特論Ⅱ	1前		2		○			1							兼2 オムニバス方式
	精神看護学方法論	1後		2		○										兼1 オムニバス方式
	女性看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1						兼1 オムニバス方式
	女性看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1						兼1 オムニバス方式
	小計 (31科目)		—	0	68	0	—	—	10	3	0	0	0	0	兼13	—
演習・研究科目	演習Ⅰ	1後		2			○		13	1						
	演習Ⅱa	2前		2			○		1							兼1 オムニバス方式・共同 (一部)
	演習Ⅱb	2前		2			○		1							兼1 オムニバス方式・共同 (一部)
	演習Ⅲa	2前		2			○		1							兼1 オムニバス方式
	演習Ⅲb	2前		2			○		1	1						兼1 オムニバス方式・共同
	慢性高度実践看護演習Ⅰ	1前		2			○		2							兼4 オムニバス方式・共同 (一部)
	慢性高度実践看護演習Ⅱ	1後		2			○		2							兼4 オムニバス方式
	小児高度実践看護演習Ⅰ	1前		2			○		1							兼1 共同
	小児高度実践看護演習Ⅱ	1後		2			○		1	1						兼2 オムニバス方式
	研究セミナー	1通		4			○		13	1						
	特別研究	2通		6			○		13	1						
	慢性高度実践看護課題研究	2通		2			○		1							
	小児高度実践看護課題研究	2通		2			○		1							
小計 (13科目)		—	0	32	0	—	—	13	3	0	0	0	0	兼9	—	
合計 (56科目)		—	4	120	0	—	—	13	3	0	0	0	0	兼17	—	
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得するとともに、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文 (特定の課題についての研究の成果を含む) を提出し、審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>「専門看護師コース」</p> <p>① 共通科目：「看護理論」「看護研究方法Ⅰ」「フィジカルアセスメント」「病態生理学」「臨床薬理学」10単位必修、選択科目から4単位 (各選択に別途定める必修科目含む) の計14単位以上</p> <p>② 専門科目 (以下のa・bの専門看護師専攻教育課程2課程から1課程を選択)</p> <p>a. 慢性看護選択者：必修8科目20単位</p> <p>b. 小児看護選択者：必修9科目20単位</p> <p>③ 演習・研究科目：各分野の「演習」4単位及び「課題研究」2単位の計6単位</p> <p>④ 以上①～③の要件を充たし、かつ合計40単位以上取得</p> <p>「研究コース」</p> <p>① 共通科目：「看護理論」「看護研究方法Ⅰ」「看護研究方法Ⅱ」6単位必修</p> <p>② 専門科目：専攻する分野の専門科目の必修科目及び選択科目6単位以上</p> <p>③ 演習・研究科目：「演習Ⅰ」2単位、「研究セミナー」4単位及び「特別研究」6単位の計12単位</p> <p>ただし、精神看護学分野の学生は、計12単位に「演習Ⅱa」2単位、「演習Ⅱb」2単位を加えて計16単位、高齢者看護学分野の学生は、「演習Ⅲa」2単位、「演習Ⅲb」2単位を加えて計16単位</p> <p>④ 共通科目又は専門科目：2単位以上</p> <p>⑤ 以上①～④の要件を充たし、かつ合計30単位以上取得</p>							1 学年の学期区分		2期							
							1 学期の授業期間		15週							
							1 時限の授業時間		90分							

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻(D))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	理論看護学	1前	2			○			2					共同	
	看護学研究	1前	2			○			3					オムニバス方式	
	英語論文演習	1後		1			○		1	1				オムニバス方式	
	小計(3科目)	—	4	1	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0	—
専門科目	高齢者高度実践看護学特論	1・2前		2		○			1					共同 オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部)	
	看護ケア・教育学特論	1・2前		2		○			2						
	看護情報システム特論	1・2前		2		○			1						
	看護政策・マネジメント特論	1・2前		2		○			2						
	精神健康看護学特論	1・2前		2		○			1						
	看護病態学特論	1・2前		2		○			1						
	国際保健学特論	1・2前		2		○			1	1					
小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	—	9	1	0	0	0	0	—	
演習・研究科目	看護学演習	1・2後	2				○		9	1				オムニバス方式又は共同	
	看護学特別研究	1~3通	6				○		12						
	小計(2科目)	—	8	0	0	—	—	—	12	1	0	0	0	0	—
合計(12科目)		—	12	15	0	—	—	—	13	1	0	0	0	0	—
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
① 共通科目から4単位以上、専門科目から2単位以上、演習・研究科目から8単位の合計14単位以上を修得すること。 ② 博士論文を作成し、論文審査及び試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基幹科目	基礎Ⅰ	1前		2		○			3						オムニバス	
	基礎Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	基礎Ⅲ	2前		2		○			1							
	女性Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	女性Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	女性Ⅲ	1前		2		○									兼8 オムニバス	
	女性Ⅳ	1後		2		○									兼1	
	地域	神戸学	1前		2		○									兼6 オムニバス
		地域学習	1通		2			○				1				
		小計（9科目）	—	0	18	0	—	—	—	4	0	1	0	0		兼18
全学共通 教養科目	英語	英語Ⅰ－1	1前		1			○								兼2
		英語Ⅰ－2	1後		1			○								兼2
		英語Ⅱ－1	1前		1			○								兼2
		英語Ⅱ－2	1後		1			○								兼2
		外国語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼2
		外国語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼2
		教養英語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		教養英語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
		教養英語Ⅱ－1	1前		1			○								兼1
		教養英語Ⅱ－2	1後		1			○								兼1
	語学科目 (世界の言語)	ドイツ語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		ドイツ語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
		ドイツ語会話Ⅰ	1後		1			○								兼1
		ドイツ語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1
		フランス語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		フランス語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
		フランス語会話Ⅰ	1後		1			○								兼1
		フランス語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1
		中国語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		中国語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
	初習言語	中国語会話Ⅰ	1後		1			○								兼1
		中国語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1
		朝鮮語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		朝鮮語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
		朝鮮語会話Ⅰ	1後		1			○								兼1
		朝鮮語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1
		イタリア語Ⅰ－1	1前		1			○								兼1
		イタリア語Ⅰ－2	1後		1			○								兼1
		イタリア語会話Ⅰ	1後		1			○								兼1
		イタリア語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1
	小計（30科目）	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼9	
情報科目	情報Ⅰ	1前		2			○								兼2	
	情報Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼3	

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ウエルネス科目	基礎トレーニング	1前	1					○							兼1	
	スポーツと健康の科学	1前		2			○								兼1	
	スポーツ実技Ⅰ-1	1後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅰ-2	2前		1					○						兼4	
	スポーツ実技Ⅰ-3	2後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅰ-4	3前		1					○						兼4	
	スポーツ実技Ⅰ-5	3後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅰ-6	4前		1					○						兼4	
	スポーツ実技Ⅰ-7	4後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅱ-A	1後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅱ-B	2後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅱ-C	3後		1					○						兼3	
	スポーツ実技Ⅱ-D	4後		1					○						兼3	
	小計(13科目)		—	1	13	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6
全学共通教養科目 一般科目	人・思想 哲学	1前		2			○								兼1	
	宗教	1前		2			○								兼1	
	人・行動 心理学Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	心とからだの健康	1後		2			○								兼6 オムニバス	
	言葉と文学 言葉と文学Ⅰ	1前		2			○									兼1
		言葉と文学Ⅱ	1後		2			○								兼1 隔年
		言葉と文学Ⅲ	1後		2			○								兼1 隔年
	歴史 歴史Ⅰ	1前		2			○									兼1
		歴史Ⅱ	1後		2			○								兼1 隔年
		歴史Ⅲ	1後		2			○								兼1 隔年
	現代社会 日本国憲法	1前		2			○									兼1
		現代社会Ⅰ	1後		2			○								兼1
		現代社会Ⅱ	1前		2			○								兼1
		現代社会Ⅲ	1後		2			○								兼1
		現代社会Ⅳ	1後		2			○								兼1
	現代社会Ⅴ	1前		2			○								兼11 オムニバス	
	数学 数学Ⅰ	1後		2			○									兼1
		数学Ⅱ	1前		2			○								兼1
	自然と環境 自然と環境Ⅰ	1後		2			○									兼1
		自然と環境Ⅱ	1前		2			○								兼1
	芸術 芸術Ⅰ	1前		2			○									兼1
		芸術Ⅱ	1前		2			○								兼1
	衣・食・住 衣・食・住Ⅰ	1前		2			○									兼2 オムニバス
衣・食・住Ⅱ		1後		2			○								兼5	
教養総合科目 教養総合Ⅰ	1前		2			○									兼1	
	教養総合Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	教養総合Ⅲ	2前		2			○								兼1	
	教養総合Ⅳ	2後		2			○								兼1	
	教養総合Ⅴ	3前		2			○								兼1	
	教養総合Ⅵ	3後		2			○								兼1	
	教養総合Ⅶ	4前		2			○								兼1	
	教養総合Ⅷ	4後		2			○								兼1	
小計(32科目)		—	0	64	0		—		0	0	0	0	0	0	兼39	

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	特別生物	1前		2		○									兼1
	特別化学	1前		2		○									兼1
	生命倫理	1後		2		○									兼1
	発達心理学	1前		2		○									兼1
	医療と法	1後	1			○									兼1
	コミュニケーション論（表現学）	1後		2		○									兼1
	食品学総論	1後		2		○									兼1
	栄養代謝学	2後	1					○							兼1
	フィジカルフィットネス	2後		1				○							兼1
	薬理学	2前	1			○									兼1
	社会福祉・社会保障論	2前	1			○									兼1
	社会福祉・社会活動論	3後	1			○									兼1
	公衆衛生学	1後	1			○			1						
	疫学	2前	2			○			1						
	保健統計学	3後	2			○			1						
	健康相談活動	4後		2		○					1				
	学校保健Ⅱ	3後		1		○					1				
	国際保健	4前		1		○									兼1
	医療英語	4前		1				○							兼1
小計（19科目）		—	10	18	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼12	
専門科目	看護学概論	1前		2		○			1						
	生活概論	1前		1		○			2		1				オムニバス
	生活援助論	1後		1				○			1				
	予防看護論	3後		1		○					1				
	看護情報学	3後		1		○			1						
	看護倫理	4後		1		○			4		1				オムニバス
	実践看護論	2前		1		○			1						
	老年看護論	2前		1		○			1						
	老年看護実践方法論	3後		2		○				1					
	在宅看護論	3前		2		○			1		1				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	1前		1				○	2	1	2				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	2後		2				○	2	1	2				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティ看護実習Ⅰ	1後		1					3	1	3	3	2		共同
	コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	2後		2					1	1		1	1		共同
	公衆衛生看護学概論	3前		2		○			1						
	コミュニティケアシステム論	2前		1		○			1		4				オムニバス
	地域看護活動論	3前		2		○					1				
	公衆衛生看護演習	4前			1						1				
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	3後		2		○					1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	3後		1		○			1						
	公衆衛生看護管理論	4前		1		○			1						
	災害看護	4前		1		○			5	1	1				オムニバス
	学校保健Ⅰ	3後		1		○					1				
	公衆衛生看護活動論実習	4前		2				○	1		2	3	2		共同
	公衆衛生看護管理論実習	4前		1				○	1		1	3	3		共同
小計（25科目）		—	24	10	0	—	—	—	8	2	8	4	3	兼0	

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
医療看護分野	人体のしくみと機能Ⅰ	1前	2			○								兼1
	人体のしくみと機能Ⅱ	1後	2			○								兼1
	疾病と治療Ⅰ	2前	1			○								兼1
	疾病と治療Ⅱ	2前	2			○								兼6 オムニバス
	疾病と治療Ⅲ	2前	2			○								兼1
	疾病と治療Ⅳ	2前	1			○								兼1
	感染免疫学	2後	1				○		1					
	医療ケアシステム論	2前	1			○			3					兼1 オムニバス
	急性期看護論	3前	2			○			1					
	慢性期看護論	3前	2			○				1				
	治療看護論	2前	1				○				1			
	治療療養支援技術演習	3前	1				○		1		2			オムニバス・共同(一部)
	精神看護論	2前	2			○			1		1			オムニバス
	こころの健康増進と看護	3後	1			○			1					
	精神看護支援技術演習	2後	1				○		1		1			オムニバス
	医療看護実習Ⅰ	1前	1					○	2		5	2	4	共同
	医療看護実習Ⅱ(精神)	2後	2					○	1		1		2	共同
	医療看護実習Ⅱ(急性期)	3前・後	3					○	2		1		2	共同
	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	3前・後	3					○	1		2	2		共同
小計(19科目)	—	31	0	0	—	—	—	5	0	5	2	4	兼9	
専門科目	疾病と治療Ⅴ	2後	1			○								兼1
	疾病と治療Ⅵ	2後	1			○								兼1
	小児看護論	2後	2			○			1					
	小児療養看護論	3前	1			○				1				
	家族看護論	3前	1			○			3		2			オムニバス
	養護概説	2前	2	2		○					1			
	母性看護論	2後	2			○				1				
	女性の健康増進と看護	3前	1			○			1					
	成育看護技術演習Ⅰ	2後	1				○		2	1	2			オムニバス・共同
	成育看護技術演習Ⅱ	3前	1				○		2	1	2			オムニバス・共同
	成育看護実習Ⅰ	1後	1					○	2	1	3	2	1	共同
	成育看護実習Ⅱ(小児)	3前・後	2					○	1		2	1	1	共同
	成育看護実習Ⅱ(母性)	3前・後	2					○	1	1	1	1		共同
	助産学概論	3前		1			○			1				
	助産診断技術論	3後		2			○				1			
助産診断技術論演習	4前		2				○	1	1	1			共同	
助産管理	4前		1			○		1						
助産学実習	4前		8					1	1	1	1		共同	
小計(18科目)	—	16	16	0	—	—	—	4	1	5	2	1	兼2	
統合看護科目	学びのグループゼミⅠ	1通	1				○		9	2	9			共同
	学びのグループゼミⅡ	2通	1				○		9	2	9			共同
	学びのグループゼミⅢ	3通	1				○		9	2	9			共同
	学びのグループゼミⅣ	4通	1				○		9	2	9			共同
	課題探究	4通	4				○		8	2	9			※実習、共同
	総合実習(地域・在宅)	4前	4					○	8	2	9	8	7	共同
小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	9	2	9	8	7		

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職に関する科目	教職論	1前			2	○								兼1
	教育基礎論Ⅱ	1前			2	○								兼1
	教育心理学Ⅱ	1前			2	○								兼1
	教育社会学	1後			2	○								兼1
	人権教育	3前			2	○								兼2
	教育行政学	1後			2	○								兼1
	教育課程総論	2前			2	○								兼1
	道德教育の理論と実践	1後			2	○								兼1
	特別活動論	1後			2	○								兼2
	教育方法の理論と実践	3前			2	○								兼2
	生徒指導論（栄教・養教）	2後			2	○								兼1
	教育相談	2前			2	○								兼2
	養護実習指導	4前			1		○			1				兼2 オムニバス
	養護実習A	4後			4			○		1				兼2 共同
	養護実習B	4後			2			○		1				兼2 共同
教職実践演習（養護教諭）	4後			2		○			1				兼2 オムニバス	
小計（16科目）		—	0	0	33	—			0	0	1	0	0	兼14
教職関連科目	特別支援学校体験活動	2後			1			○			1			
小計（1科目）		—	0	0	1	—			0	0	1	0	0	
合計（190科目）		—	94	173	34	—			9	2	9	8	7	兼94
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業要件として全学共通教養科目を20単位以上、専門科目を98単位以上（専門基礎科目15単位以上含む）、全学共通教養科目又は専門科目を6単位以上、合計124単位を修得しなければならない。 全学共通教養科目20単位については、語学科目（世界の言語）のうち英語のみで6単位以上、ウェルネスのうち「基礎トレーニング」を含み1単位以上を修得する必要がある。 また、履修科目の登録の上限単位数は原則年間46単位（卒業要件単位に含まない教職科目を除く）とする。 なお、保健師国家試験受験資格を取得するためには、「発達心理学」、「公衆衛生看護演習」、「公衆衛生看護活動論Ⅰ」、「公衆衛生看護活動論Ⅱ」、「公衆衛生看護管理論」、「災害看護」、「学校保健Ⅰ」、「公衆衛生看護活動論実習」、「公衆衛生看護管理論実習」の9科目計12単位を履修する。 また、助産師国家試験受験資格を取得するためには、「生命倫理」、「発達心理学」、「助産学概論」、「助産診断技術論」、「助産診断技術論演習」、「助産管理」、「助産学実習」の7科目計18単位を履修する。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授業科目の概要			
(看護学研究科看護学専攻 (M))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護教育論	<p>看護基礎教育、継続教育の実践者、専門看護師ならびに看護職としてのクライアント、保健医療福祉関係者の教育活動を展開するための基盤となる知識の獲得を目指す。教育の歴史と哲学的な背景ならびに主要な教育理論を概観し、看護教育および看護実践において活用される主な教育・学習理論と概念について理解を深める。看護実践ならびに看護教育における教育的要素の特徴について考察するとともに、具体的な事例検討を通じて、看護における教育と学習支援の技術を学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は中岡亜希子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 東 ますみ/2回) 情報通信技術を用いた教育の意義と方法について教授する。</p> <p>(9 中岡 亜希子/11回) 看護学教育の歴史と哲学的な背景ならびに主要な教育理論・学習理論、ならびに教育方法と評価について教授する。</p> <p>(11 野並 葉子/1回) 看護教育におけるアクティブラーニングの意義と方法について教授する。</p> <p>(13 横内 光子/1回) 看護におけるシミュレーション教育の意義と方法について教授する。</p>	オムニバス方式
	看護マネジメント論	<p>保健医療福祉が提供される多様な場と、それに携わる専門職ならびに管理職の持つ役割や価値観について理解を深め、連携・協働によるシナジー効果を高めるための基本的知識と技術を学ぶ。ヘルスケア・サービスのマネジメントに関する主要概念について理解を深めるとともに、保健医療福祉に関する国のビジョンと政策の全体像を理解し、看護職ならびに高度実践看護師として、効果的に人々の健康に貢献するための方略と方策を考える基礎的な能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は洪愛子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 洪 愛子/8回) ヘルスケア・サービスにおける看護専門職の特徴、機能と役割ならびに、看護サービスの制度化について教授する。</p> <p>(13 横内 光子/6回) ヘルスケア・サービスの特徴ならびにその主要な理論を概観し、マネジメントに必要な知識と技術について教授する。</p> <p>(6 洪 愛子・13 横内 光子/1回) (共同) ヘルスケア・サービスの特徴と社会における位置づけについて教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護理論	<p>実践科学としての看護学について、看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況を知り、看護実践への有用な理論及び概念について理解を深め、実践及び研究への活用を促進する。まず、今後の看護学の発展と看護理論の活用のために、概念分析の手法を用いて中心概念または看護現象の特徴の特定化について理解を深める。さらに、学生間の実践コミュニティの育成方法の選択・方略、成果の方向性について学ぶ。具体的には、実践コミュニティを育成しながら、学習の伸展と知識の創出ができるよう進める。本科目の科目責任者（単位認定教員）は野並葉子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(9 中岡 亜希子/3 回) 主要な看護理論と概念、看護実践や教育への理論の活用と、看護現象についての概念分析、理論化の方法について教授する。</p> <p>(11 野並 葉子/8 回) 看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況、ならびに概念開発について教授する。</p> <p>(9 中岡 亜希子・11 野並 葉子/4 回) (共同) 実践コミュニティ育成の方略、中長期目標の設定、成果の方向性について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	看護研究方法論 I	<p>看護研究の特徴やプロセスを理解し、多様な研究方法を知る。帰納的推論と演繹的推論、質的研究と量的研究、文献検討と文献クリティーク、データ収集、データ分析、研究倫理等を学び、看護研究を実施するうえで必要となる研究方法論全般について、理解を深める。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(1 東 ますみ/7 回) 看護における研究の役割、倫理的配慮と研究過程の概要と研究デザインについて教授する。</p> <p>(13 横内 光子/8 回) 研究の具体的な方法として、文献検索と文献クリティーク、データ収集と分析、結果の活用ならびに看護研究における今後の課題と展望について教授する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護研究方法 論Ⅱ	<p>看護研究の方法として、量的研究デザイン、質的研究デザイン、ならびにミックス・メソッドについての理解を深める。量的研究デザインと質的研究デザインの背景にある現象のとらえ方に関するパラダイムの相違を踏まえて、主要な測定法と記述・推測統計、質的研究デザインのデータ収集・分析方法、およびミックス・メソッドを理解できる。自己の研究課題に関連する先行研究について、方法論の妥当性を適切に評価し、文献検討に活用するとともに、研究課題に応じた方法論を検討する能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は東ますみである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 東 ますみ/5回) 量的研究デザインに関する科学的な基盤と主要な量的デザインの方法論ならびにミックス・メソッドについて教授する。</p> <p>(10 中村 隆/5回) 多様な現象の測定についての基本的な考え方と、得られる量的データの統計的分析方法について教授する。</p> <p>(13 横内 光子/4回) 質的研究デザインに関する科学的な基盤と主要な質的データの収集・分析方法ならびに事例研究について教授する。</p> <p>(1 東 ますみ・13 横内 光子/1回) (共同) 看護研究における、研究手法の現状と課題、今後の研究手法の開発と展望について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	コンサルテーション論	<p>コンサルテーションの概念と実践モデルについて学ぶ。また、看護の臨床場面で発生する問題へのコンサルテーションの適用、専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について理解する。さらに、コンサルテーション事例を用いた検討を通して、看護コンサルタントとしての具体的な実践方法（姿勢や態度、アセスメント技術、対人関係技術、介入技術、評価方法等）を習得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は玉木敦子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 玉木 敦子/5回) 看護コンサルテーションの動向と実践、コンサルテーションの概念、理論およびモデル、メンタルヘルス・コンサルテーションを担当する。</p> <p>(19 藤原 由子/3回) コンサルテーションの実際と課題、および組織におけるコンサルテーションの体制づくりを担当する。</p> <p>(23 元木 絵美/4回) コンサルテーションの実際と課題を担当する。</p> <p>(19 藤原 由子・23 元木 絵美/3回) (共同) 事例を用いた模擬コンサルテーションを担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護倫理展開論	<p>看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念や現代社会における倫理的課題、生死に関わる倫理的課題について概観し、その中で生じている葛藤や倫理的ジレンマについて学ぶ。さらに、また、専門看護師が持つ葛藤や倫理的ジレンマに対して、組織的に対応すべき課題や対処についても学ぶ。その上で、倫理調整や倫理コンサルテーションで必要となる技術について学ぶ。本科目の科目責任者(単位認定教員)は野並葉子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 野並 葉子/4回) 看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念や倫理的意思決定モデルについて教授する。</p> <p>(1 藤田 冬子/7回) 専門看護師が持つ葛藤や倫理的ジレンマに対して、組織的に対応すべき課題や対処、生死及び医療・老年看護における倫理的課題について教授する。</p> <p>(8 玉木 敦子/2回) 精神症状をもつ人の人権擁護について教授する。</p> <p>(4 内 正子/2回) 小児看護における治療方針の決定プロセスや小児と家族がもつ倫理的課題等について教授する。</p>	オムニバス方式
	看護政策論	<p>国内外の看護を取り巻く保健医療政策の変遷を学び、保健医療政策に関する理論やモデル、政策策定のプロセスについて修得し、現在の保健医療施策についてアセスメントできる能力を養う。また、コミュニティ・オブ・プラクティスの概念や理論、実践を国内外の文献により探究し、専門看護師らがこれからの政策を計画、実践、評価していくことができる能力を養う。本科目の科目責任者(単位認定教員)は魚里明子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 洪 愛子/5回) 国内外の保健医療政策や医療制度の変遷と政策・制度策定における看護職の役割について教授する。</p> <p>(2 魚里 明子/5回) 看護政策策定、ヘルスケアシステム構築に関する理論やモデルとその活用について教授する。</p> <p>(30 堀田 聡子/3回) 保健医療福祉政策策定、ヘルスケアシステム構築のプロセスと実践事例について教授する。</p> <p>(2 魚里 明子・6 洪 愛子/2回)(共同) 国内外の政策策定、ヘルスケアシステム構築に関する理論やモデルに基づいた実践の文献検討を行い、探究する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	国際保健・疫学 論	<p>本科目では、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解、あるいは理論的背景の概説に加えて、国際保健看護活動の分析と解釈に必須とされる疫学の講義を行う。言い換えれば、グローバルな視点で南北間の健康格差を認識すると共に、それらの原因となる背景要因を学ぶことを目標とする。講義では、国際保健やそれと関係する疫学のいくつかの主要課題についてそのフレームワークを示し、個々の課題についての原因分析を行うため、学生は感染症論、国際保健医療協力論、あるいはプライマリーケア論や疫学の実践方法論などを学ぶことになる。本科目の科目責任者（単位認定教員）は宇賀昭二である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 宇賀 昭二／6回) 国際保健学総論ならびに国際社会の貧困と人権、感染症について教授する。 (15 田村 康子／8回) 国際開発援助の歴史、世界の健康問題と保健医療分野における国際協力活動、看護活動ならびにその評価と実際について教授する。 (3 宇賀 昭二・15 田村 康子／1回) (共同) 上記学習内容をふまえて国際保健における課題と今後の展望について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	フィジカルア セスメント	<p>複雑な健康問題をもつ対象の身体状況について、系統的に全身を審査し、症候から診断にいたる過程（医療面接・身体診察・臨床検査）を理解し、専門看護師として診断および包括的な健康アセスメントと症状マネジメントに必要な臨床判断技術を習得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は加治秀介である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 加治 秀介／10回) 医療面接の基本と系統的な身体診察手技および所見の解釈、検査の意義および手技と検査データの解釈から、診断の推論について教授する。 (25 鷺田 幸一／2回) 胸部（心臓・血管系）の身体診察手技と所見およびケーススタディを通じた回復期患者の臨床看護判断について教授する。 (5 加治 秀介・19 藤原 由子／2回) (共同) 胸部（胸郭・肺・乳房）および直腸、泌尿器、生殖器の診察手技と所見について教授する。 (5 加治 秀介・19 藤原 由子・25 鷺田 幸一／1回) (共同) 診断に必要な身体診察と検査の選択と所見の解釈に基づく臨床看護判断について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	病態生理学	<p>生理機能のメカニズムと主要症状および機能障害の発症機序、その評価方法と治療法など疾病理解の基礎となる病態生理を概説し、模擬症例の検討を通じて臨床診断過程を修得し、専門看護師としてケアに活用するための臨床看護判断の能力を習得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は加治秀介である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 加治 秀介／9回) 病態組織学、病態機能学、免疫学の概要とともに、主要疾患について、看護判断に必要な臨床病態学の基本を教授する。</p> <p>(13 横内 光子／1回) 炎症と侵襲に対する生体反応および外傷および環境による病態と看護判断について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介・13 横内 光子／2回) (共同) 運動機能障害・感覚機能障害の病態生理・医学診断・治療の考え方と看護判断、ならびに慢性疾患の急性増悪時の看護判断について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介・24 奥井 早月／2回) (共同) 腎・泌尿器機能障害の病態生理・医学診断・治療の考え方と看護判断、ならびに生活習慣病の看護判断について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介・13 横内 光子・24 奥井 早月／1回) (共同) 病態生理学の理解に基づく看護判断の意義と方法および臨床での活用について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	臨床薬理学	<p>多様な臨床場面で必要な治療を理解し、薬剤学、薬理学について学び、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、専門看護師として必要な薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上をはかるための知識と技術を修得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は吉川豊である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(17 吉川 豊／9回) 臨床薬理学概論、薬物動態の理論、主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方論の理論、主要薬物の相互作用の理論を教授する。</p> <p>(6 洪 愛子／1回) 感染症の薬剤使用の判断と看護について教授する。</p> <p>(17 吉川 豊・6 洪 愛子／5回) (共同) 主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方と臨床薬理学の知識に基づく看護について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	慢性看護学特 論 I	<p>慢性病者を支援する政策と制度の発展の歴史と現状について、慢性病患者と家族、ならびに彼らを取り巻く地域、社会全体が慢性病患者とその支援のあり方をどのようにとらえ、政策や制度として発展させてきたのかと関連付けて学ぶ。また、現行の政策や制度について、慢性病患者およびその家族の社会における位置づけの歴史的、社会・文化的背景の変化と関連付けて評価し、現状の支援体制の問題点を分析する。さらに、今後の社会構造と保健・医療・福祉環境の変化に応じた慢性病患者と家族支援のあり方の再考と、必要とされる政策・制度について議論できる素地を習得する。本科目の科目責任者(単位認定教員)は洪愛子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(6 洪 愛子/8 回) 慢性病患者の支援制度、政策についてその歴史と現状、問題点、将来ビジョンならびにビジョンを実現するための方略について教授する。</p> <p>(2 魚里 明子/2 回) 国内の慢性病患者の支援制度・施策の歴史と慢性病患者の支援団体について教授する。</p> <p>(11 野並 葉子/1 回) 国内外における慢性病の歴史と文化・社会的位置づけについて教授する。</p> <p>(11 野並 葉子・6 洪 愛子/2 回) (共同) 生活習慣病を持つ人の支援体制の問題点と Cure と Care の統合について教授する。</p> <p>(2 魚里 明子・6 洪 愛子/2 回) (共同) 神経難病や自己免疫疾患を持つ人の支援体制の問題点と慢性病の予防体制について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	慢性看護学特 論Ⅱ	<p>慢性病患者およびその家族の行動と反応を理解するための主要な理論、概念について学ぶ。理論、概念では、慢性病患者と家族がとる行動の背景に潜む苦悩の理解、慢性病患者をもちながら生きることへの理解、慢性病患者を持つ人の時間性の理解のために、それぞれの中心となる理論・概念を学習する。また、理論や概念の定義、類型を踏まえ、慢性病患者とその家族の行動理解に基づく介入とその課題について学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 野並 葉子／1回) 慢性病患者の行動と反応理解のための中核的理論について教授する。</p> <p>(13 横内 光子／2回) ストレスとコーピングに関する理論ならびに理論・概念の活用と課題について教授する。</p> <p>(19 藤原 由子／5回) 慢性病患者を理解するための主要概念（病みの軌跡、不確かさ、スティグマ、病者役割など）について教授する。</p> <p>(23 元木 絵美／5回) 慢性病患者を理解するための主要概念（生活時間の再編、身体可動性の変化と消耗性疲労など）と慢性病患者の家族の行動と反応理解について教授する。</p> <p>(11 野並 葉子・13 横内 光子／2回) (共同) 慢性病患者を理解するための包括的な理論と主要理論ならびに慢性病患者の行動と反応理解の方法について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	慢性看護学方 法論 I	<p>慢性病に対する主要な医学的評価・診断、治療方針の決定、治療計画の考え方と、病気と診断・治療に伴う主要な身体機能の変化についてアセスメントするための技術を学ぶ。慢性病とその診断・治療を受けることにより、慢性病者の身体面、心理面、社会面、ならびに生活面にどのような影響が及ぶのかについて、多面的、包括的にアセスメントするための知識を学び、事例検討を通じて複雑な問題を抱える慢性病患者とその家族の包括的なアセスメントを実施する。また、ライフストーリー法を用いた生活理解の方法について学び、生活体験という視点から慢性病患者の生活を理解する能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は藤原由子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(5 加治 秀介/6 回) 主な慢性病の医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について教授する。</p> <p>(19 藤原 由子/5 回) 慢性病者の心理・社会的アセスメントと、病の体験、生活体験を理解する方法ならびに医学的な評価と診断・治療における看護の役割について教授する。</p> <p>(25 鷺田 幸一/1 回) EBM と診療ガイドラインの概論について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介・19 藤原 由子/1 回) (共同) 事例検討を通じて、アレルギー疾患・呼吸器疾患患者の包括的アセスメントについて教授する。</p> <p>(5 加治 秀介・25 鷺田 幸一/1 回) (共同) 事例検討を通じて、生活習慣病患者の包括的アセスメントについて教授する。</p> <p>(19 藤原 由子・25 鷺田 幸一/1 回) (共同) 包括的なアセスメントによる効果的な看護の提供について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	慢性看護学方 法論Ⅱ	<p>慢性病者が病いを抱えながらその人らしく生きるための支援方法について、関連する理論や概念を踏まえて修得する。慢性病の予防、診断と治療、症状や病気の再燃、急性増悪、身体の機能や生活状態の回復、維持、悪化予防のためのセルフマネジメントの支援と各時期における専門的看護技術について理解を深め、慢性病者のリハビリテーション看護とエンド・オブ・ライフケアにおける支援方法について学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 藤原 由子／5回) 慢性病者のセルフマネジメント支援、患者教育、ならびにエンド・オブ・ライフケアの概要と具体的な方法について教授する。</p> <p>(25 鷺田 幸一／4回) 慢性病予防のセルフマネジメント支援、慢性病者のリハビリテーション看護およびエンド・オブ・ライフケアの概要と具体的な方法について教授する。</p> <p>(23 元木 絵美／3回) 慢性病者の支援に必要な主要概念(アドボカシーと症状マネジメント)と概念を活用した具体的な支援方法について教授する。</p> <p>(13 横内 光子／3回) 慢性病者の健康評価と急性増悪期の看護、ならびに支援技術の開発と評価について教授する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	慢性看護ケア システム論	<p>病院の入院・外来、地域や職場、居宅など、慢性病の予防と慢性病を持つ人のための治療療養環境の現状について理解し、セルフケアを支援するための調整の方策と方術について学ぶ。また、慢性病患者と家族が活用できるサポートネットワークや社会資源の特徴を理解し、慢性病を持ちながらその人らしい質の高い生活を維持・向上するためのネットワークの形成、資源の活用、調整に必要な能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は洪愛子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(6 洪 愛子／3 回) コミュニティ・オブ・プラクティスの視点から、医療・介護・福祉施設における慢性病患者の療養環境について教授する。</p> <p>(23 元木 絵美／7 回) 慢性病の予防・悪化の予防環境と療養環境の調整について教授する</p> <p>(24 奥井 早月／4 回) 慢性病患者の就労と就労環境、ならびに療養環境の調整方法について教授する。</p> <p>(6 洪 愛子・23 元木 絵美・24 奥井 早月／1 回) (共同) コミュニティ・オブ・プラクティスの視点からみた、慢性病患者の予防・治療・療養環境における看護師の役割と将来ビジョンについて教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	慢性看護実習 I	<p>専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病患者の受け持ちを通じて、身体面・心理面・社会面および生活の変化を包括的にアセスメントする方法を学ぶ。また、専門医の診察場面に同席し、診断のための検査や処置、薬物療法などの治療調整などについて学ぶ。慢性疾患看護専門看護師や教員からのスーパービジョンを受け、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、家族アセスメント、セルフケアの査定、症状モニタリング、ライフヒストリー法などの方法を用いて、慢性病患者とその家族を包括的にアセスメントする技術を修得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p>	共同

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	慢性看護実習 II	専門領域（サブ・スペシャリティ）の看護実践ができる施設で実習を行い、サブ・スペシャリティにおける専門的ケアの知識と技術を活用し、受け持ち患者の看護を実践する。受け持ち患者の包括的なアセスメントに基づく効果的な看護計画を立案し、その実践の場において高度な支援を提供する準備性や課題を踏まえたうえで、適切な方法と時機をとらえて実践し、評価するプロセスを学ぶ。また、複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画の立案プロセスから、高度な看護実践を体得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。	共同
	慢性看護実習 III	慢性疾患専門看護師の活動の実際を見学、あるいは活動の一部を実践することを通して、専門看護師の6つの機能（実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理調整、研究）がどのように展開されているかを学ぶ。また、講義で学習する理論や概念を活用し、慢性病患者に医療やケアを提供している人々へのコンサルテーションや、ケアの調整（コーディネーション）を行い、システムへの参入や組織内における役割開発の方略について学ぶ。本実習は、慢性看護領域において活動している慢性疾患看護専門看護師ならびに教員のスーパーバイズを受けながら展開し、学生は、本実習を通して、専門看護師として活動していく上での自らの課題を明らかにする。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。	共同
	小児看護学特 論 I	小児の成長発達、セルフケア、家族に関する主要な理論を学び、看護実践における理論および概念の活用を考察する。また、小児を取り巻く社会や医療の現状から、小児看護における倫理的課題を明らかにする。さらに、研究動向から最近の知見を分析し、小児看護の課題を探求する。	
	小児看護学特 論 II	小児の健康生活にかかわる諸要因のうち、健康障害に関連するストレスに焦点をおき、医療を受けるときのストレスを中心に、痛みへの対処、説明に対する理解など、小児特有の反応と家族特有の反応を学び、個々の発達段階と状況を考慮した小児と家族への看護を考察する。	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	小児看護学方 法論 I	<p>小児期に特有な疾患の病態生理、診断、検査とその解釈法、治療法について理解を深め、Cure と Care を融合させた症状マネジメントの実践方法について学ぶ。さらに、高度看護実践への方略の開発に向けて考察する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(4 内 正子／10 回)</p> <p>呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患、小児救急の診断と治療を教授する。また、発達障害や在宅医療を受ける小児の診断と治療を教授する。</p> <p>(22 菅野 由美子／5 回)</p> <p>消化器疾患、循環器疾患、血液腫瘍性疾患の小児の診断と治療を教授する。</p>	オムニバス方式
	小児看護学方 法論 II	<p>複雑な状況にある小児と家族の看護問題に対して、専門看護師としての倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた実践能力を向上させるための基盤となる諸理論を理解する。また、専門看護師としての役割や機能について学び、問題解決に用いる方法論の選定について考察する。さらに、小児看護の課題を明確にし、現状を変革する方策を検討し、専門看護師としてのあり方を学ぶ。</p>	
	小児保健医療 福祉論	<p>様々な健康レベルにある小児を取り巻く社会のサポートシステムについて学ぶ。地域や在宅で生活する小児の状況を踏まえ、関連領域との連携における高度実践能力を学ぶ。関連する制度・政策について現状を理解し、今後の取り組みや政策提言につなげる方策を考察する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(4 内 正子／6 回)</p> <p>小児の健康生活を支えるサポートシステム、医療機関に入院している小児のサポートシステムについて教授する。</p> <p>(16 丸山 有希／2 回)</p> <p>医療的ケアが必要な小児の教育に関連したサポートシステムについて教授する。</p> <p>(18 小路 浩子／7 回)</p> <p>小児の健康生活を支えるサポートシステム、特別な配慮が必要な小児へのサポートシステム、移行期にある小児へのサポートシステムについて教授する。</p>	オムニバス方式
	小児看護実習 I	<p>小児看護専門看護師として、小児期に特有な疾患の診断、治療に至る実際のプロセスを学び、看護の視点からそれらを統合し、専門的ケアが実践できる能力を修得する。</p> <p>本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。</p>	共同

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	小児看護実習 II	複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、包括的なアセスメントをし、効果的な看護介入を行うことにより、専門看護師としての基礎的態度と判断能力、実践能力を学ぶ。小児とその家族に対する直接的ケアを実践する能力の向上に焦点をあてる。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である	共同
	小児看護実習 III	複雑な健康問題をもった小児とその家族に関わり、倫理的判断を含め、看護の機能・方法・方向性を検討し、状況に応じた小児看護専門看護師としての判断及び援助方法を学ぶ。小児の成長発達を焦点にあてた長期的な視野での看護介入を実践する。小児が地域における生活者であることを主眼におき、医療施設だけではなく、小児を取り巻く様々なリソースでの実習を通して、小児を包括的に援助することを学ぶ。実習を通して、専門看護師としての自己の課題を明らかにする。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。	共同
	小児看護実習 IV	複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、専門看護師に必要な高度実践能力を深める。その実践を通して専門看護師としての役割機能である調整、相談、倫理、教育の能力を学ぶ。さらに、小児看護における将来的課題を見出し、専門看護師としての役割開発を考察する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。	共同
	高齢者看護学 特論	老年学を理解し老人看護学を構築してきた諸理論や概念、倫理を学び、老人についての理解および高齢者ケアの成り立ちについて学ぶ。さらに、これらをもとに高齢者ケアを発展させるために必要となる実践の構成要素と統合し洞察する。 また、老人看護専門看護師の役割や機能がどのように実践されているか理解することを通じて、高度看護実践とその活用について学ぶ。	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	高齢者看護学 対象論	<p>高齢者の身体的・精神的・社会的側面について包括的にアセスメントする視点を養うために、生理的な老化と病的な老化についてそれぞれの特徴と促進する要因およびケアを進めるためのアセスメントを学ぶ。高齢者が持つ力について身体的・精神的・社会的側面から査定するためのアセスメントツールとその活用ができる力を養う。さらに、高齢者のこれまでとこれからの人生に焦点をあて、アセスメントと看護ケアをつなげていく力を修得する。本科目の科目責任者(単位認定教員)は藤田冬子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 藤田 冬子/9回) 高齢者の健康障害と評価、包括的アセスメントについて担当する。 (28 西山 みどり/2回) 高齢者のエンドオブライフの特徴とそのアセスメントについて教授する。 (① 藤田 冬子・14 笹谷 真由美/4回) (共同) 老年症候群の評価とアセスメント、ならびに事例検討に基づく身体・心理社会的なアセスメントについて教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	高齢者看護学 方法論	<p>家族の理解を基盤として、加齢にともない変化する家族の役割や機能を家族の諸理論や家族病理をもとに理解するとともに、家族アセスメントの方法を学びそれに基づく家族像の形成および家族との援助関係の構築について学ぶ。さらに、様々な状況にある家族事例をもとに、家族アセスメントを行い、家族の個別性に応じた家族看護介入について検討する。高齢者と家族が抱える課題について家族として成長できるための援助関係の構築についても学ぶ。</p>	
	地域看護学特 論 I	<p>地域で暮らす人々の生活を支える看護を実践する地域看護学の基本理念に基づき、地域看護の基本的かつ重要な理論や概念であるヘルスプロモーション、健康、アドボカシー、生活・生活者、コミュニティの概念について、国内外の文献を用いて探求する。また、地域看護に関する歴史や政策について、国内の文献や実践から学ぶことによって、地域看護学に関する見識を深め、地域で展開される看護活動の現象を探求できる能力を養う。本科目の科目責任者(単位認定教員)は魚里明子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 魚里 明子/1回) オリエンテーションを実施し地域看護学についての基本理念について教授する (2 魚里 明子・18 小路 浩子/14回) (共同) 地域看護学の重要理論と概念、国内の政策の変遷と今後の地域看護の方向性について教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	地域看護学特 論Ⅱ	<p>地域看護学における主要なモデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて、国内外の文献や研究を用いて探求し、修得する。また、地域看護活動の展開方法である PDCA サイクルおよび地域看護診断について、国内外の文献や実践報告を通して学び、効果的な地域看護活動の展開方法を考察し、地域看護活動における高度な実践および分析能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は魚里明子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(2 魚里 明子／1 回) オリエンテーションを実施し地域看護学の主要モデルについて教授する。</p> <p>(2 魚里 明子・18 小路 浩子／14 回) (共同) コミュニティ・アズ・パートナーモデルと PDCA サイクルならびに地域看護活動の展開方法について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	看護情報学特 論	<p>健康・医療・介護分野における ICT 化を国が推進している現在、看護情報を取り扱う専門家である看護職が、医療・看護情報分野のリーダーとして、その役割を担っていくことは重要である。看護記録情報や生体情報、設備情報、経営情報など多岐にわたる看護情報の活用と管理の方法を学び、看護情報を扱う上で不可欠な情報倫理の概念や個人情報の特徴を理解する。また、看護の質改善に役立つ情報管理のあり方や、看護における情報システムの活用について理解を深める。</p>	
	遠隔看護特論	<p>ケアの場が、病院医療から在宅医療へとシフトしている中で、情報通信技術 (ICT) を活用した看護実践である「遠隔看護」による看護援助技術の確立は、在宅医療の推進を支えていく鍵となるものである。日本では、遠隔看護分野は研究的な取り組みの段階であるため、国外における遠隔看護の歴史的発展や看護職への教育、看護実践について理解を深め、特に、在宅ケアの現場でよく見られる慢性疾患患者に対するケア提供や法律問題、プライバシーなどの現状と課題を学ぶことで、日本における遠隔看護の可能性や方策について探究する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護実践デザイン特論 I	<p>病棟、病院、施設、地域、医療圏など多様な場で展開される保健・医療・看護サービスを、そのサービス利用者とサービス提供者の実践コミュニティによる健康価値の創生プロセスととらえるコミュニティ・オブ・プラクティスの基本的な考え方を学ぶ。また、効果的な保健・医療・看護活動を展開するための、実践コミュニティの開発・育成に必要なマネジメントとコーディネートの基礎的知識を修得する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(13 横内 光子/8 回) コミュニティ・オブ・プラクティスとコーディネーションに関する理論と主要概念について概説し、実践コミュニティの開発とマネジメントについて教授する。</p> <p>(6 洪 愛子/7 回) 実践コミュニティの開発とマネジメントならびにコーディネーションの方略と方法について教授する。</p>	オムニバス方式
	看護実践デザイン特論 II	<p>保健医療福祉における看護サービスの価値を評価・可視化するための基礎的知識を修得する。看護・医療の品質管理に関する歴史的背景と経緯、ならびに主要な評価方法に関する基礎的知識、ならびに看護・医療サービスの価値と価格に影響する要因と決定過程について、社会背景や国の政策を含む広い視点から理解するための基礎的知識を学ぶ。これらをふまえて、看護サービスを効果的かつ適正に提供するためのマネジメントと政策への反映方略を学ぶ。学習のプロセスを通じて、看護実践とその成果を論理的に記述し、分析、表現する能力を養う。本科目の科目責任者（単位認定教員）は洪愛子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(13 横内 光子/6 回) 看護サービスの生産・提供システムとマネジメントおよび品質評価・管理と看護の可視化方法について教授する。</p> <p>(6 洪 愛子/8 回) 医療経済と保健医療福祉政策ならびに看護政策について教授する。</p> <p>(13 横内 光子・6 洪 愛子/1 回) (共同) 看護サービスのビジョンと創造について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	精神看護学特論 I	<p>精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的变化遷、国際的動向を学ぶ。またわが国における精神保健医療福祉の現状について学び、それらを踏まえて現行の精神保健医療福祉に関する施策や法制度について理解を深める。さらに精神保健医療福祉に関する日本の制度、体制について批判的観点から検討し、課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について考察する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	精神看護学特 論Ⅱ	<p>精神力動論、発達心理学、ストレス理論、危機理論および脳生理学的視点など心の健康と病理に関する諸理論を学び、心の健康についての心理学的・社会的・生理学的視点から総合的な理解を深める。また精神科における診断と治療、臨床心理検査、精神状態のアセスメントについて学び、精神・身体健康状態を総合的に評価する方法を理解する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は玉木敦子である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 玉木 敦子／6回) 精神看護における主要理論について教授する。</p> <p>(21 大谷 利恵／3回) 精神状態のアセスメントについて教授する。</p> <p>(27 田中 究／4回) 精神科における診断と治療について教授する。</p> <p>(31 八木 修司／2回) 臨床心理検査について教授する。</p>	オムニバス方式
	精神看護学方 法論	<p>セルフケアモデル、リカバリー理論、ストレングスモデル等について学び、精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方を考察する。さらに SST や心理教育など治療的援助技法、および自殺や暴力などの危機状態にある人へのアセスメントや介入方法について学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は非常勤講師・川田美和である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 大谷 利恵／9回) 精神障がいをもつ当事者・家族を対象とした治療的援助技法と危機状態にある人へのアセスメント・介入方法について教授する。</p> <p>(26 川田 美和／6回) 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアに必要な理論と実践について教授する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	女性看護学特 論 I	<p>女性のライフステージ全般にわたる健康問題・課題について、ウィメンズ・ヘルスの視点から女性の健康に影響をおよぼす環境要因、保健医療サービスや政策、男女共同参画政策等と関連付け理解を深めるまた、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、セクシュアリティの構成概念を学び、多様な健康課題に対応した健康支援について検討する。思春期、成熟期、更老年期における健康生活上の問題・課題と個別・集団を対象にした支援について文献や研究成果を基に考察し、ウィメンズ・ヘルスにおける看護の役割を探究できる研究的能力を養う。</p> <p>本科目の科目責任者（単位認定教員）は下敷領須美子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(7 下敷領 須美子／10 回) 女性のライフステージ全般にわたる健康問題・課題と看護について担当する。</p> <p>(15 田村 康子／3 回) リプロダクティブ・ヘルス・ライツと国際看護、災害看護について担当する。</p> <p>(20 牛越 幸子／2 回) 更老年期の健康課題について担当する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	女性看護学特 論Ⅱ	<p>周産期にある母子とその家族への看護支援、助産支援、および子を産み育てることに関する社会制度や資源、母子とコミュニティとの関係について、研究的思考に基づいて理解・検討する。具体的には、国内外における母子と家族の現状や母子保健の動向を踏まえ、母子に関連する社会制度や資源について、統計資料や白書、文献を通して検討し、日本と諸外国を比較検討することにより、課題やニーズの理解を深め、周産期ケアをシステムとして考察する。周産期にある母子と家族に関連する諸理論として、役割移行理論や母親役割移行理論、愛着理論、ソーシャルサポートネットワーク理論について国内外の文献を用いて学習し、母子を取り巻くコミュニティを視野に入れた看護支援について検討する。エビデンスに基づいた支援を行うための手法について、EBMを構成する5つのステップにそって、産婦人科診療ガイドラインを参考に周産期におけるケアのエビデンスを検討する。さらに、理論的基盤に基づいた母子への看護支援の取り組みについて、実践事例を用いて学習する。本科目の科目責任者(単位認定教員)は田村康子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 田村 康子/7回) 周産期にある母子と家族に関連する概念理解、国外における母子保健、理論を活用した実践事例について担当する。</p> <p>(7 下敷領 須美子/4回) 地域における母子への支援や子育てに関するネットワークの実際と課題、母子と家族の現状、母子保健と包括的支援について担当する。</p> <p>(20 牛越 幸子/4回) エビデンスに基づく周産期ケアについて担当する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	演習 I	<p>ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。</p> <p>(1 東 ますみ) 看護情報学や遠隔看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(2 魚里 明子) 地域看護学領域における国内外の保健医療の動向と課題、課題解決するための国内外の政策や実践事例、研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(3 宇賀 昭二) 国際保健学に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(4 内 正子) 慢性疾患のある小児と家族、在宅療養する小児と家族の看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(5 加治 秀介) 治療期にある慢性病患者の医療・看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(6 洪 愛子) 看護サービスの開発・評価・制度化や看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(7 下敷領 須美子) ウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(8 玉木 敦子) 精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(9 中岡 亜希子) 看護教育に関する基礎知識論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目		<p>(10 中村 隆) 医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探求すべき課題を明確にする。</p> <p>(11 野並 葉子) 看護ケア・教育に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(12 藤田 冬子) 高齢者に関する文献と研究の動向を概観し、特にコミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について探求する課題など、高齢者への理解を深め現代社会が抱える現状と照らし合わせて課題を明確化する。</p> <p>(13 横内 光子) 看護・医療のサービスとしての側面に焦点をあて、これまで行われてきた業務分析やタイムスタディ、シミュレーションなどの分析手法を用いた看護管理、病院管理の研究に関して、幅広く文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p> <p>(15 田村 康子) マタニティヘルスケアや国際看護に関する研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。</p>	
	演習Ⅱa	<p>心の健康問題をもつ個人・家族、集団に対して適用される看護面接、認知行動療法、ストレス・コーピング、リラクゼーションの理論とその技法について学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は玉木敦子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 玉木 敦子/9回) ストレス・コーピング、リラクゼーション療法、認知行動療法の歴史、基本理論等について教授する。</p> <p>(8 玉木 敦子・21 大谷 利恵/6回) (共同) 患者・家族を対象とした看護面接について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	演習Ⅱb	<p>精神的諸問題をもつ人や精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について学ぶ。また精神看護における倫理的課題についても学ぶ。本科目の科目責任者(単位認定教員)は玉木敦子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 玉木 敦子/8回) 精神的諸問題をもつ人のアセスメントと看護援助について教授する。 (21 大谷 利恵/6回) 精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について教授する。 (8 玉木 敦子・21 大谷 利恵/1回) (共同) 精神看護における倫理的課題について教授する</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	演習Ⅲa	<p>健康障害を持つ高齢者が入院する急性期の病院でおこなわれている高齢者への看護ケア等について学ぶ。さらに、高齢者に生じやすい身体的・心理社会的状態のアセスメント、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援についても学ぶ。本科目の科目責任者(単位認定教員)は藤田冬子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 藤田 冬子/11回) 急性期の治療を受ける高齢者の治療とケアのもととなるアセスメントとその人らしさを尊重した支援について教授する。 (32 花房 由美子/4回) 急性期病院で治療を受ける高齢者の転倒予防・身体拘束のアセスメントとケア、および退院調整・地域連携について教授する。</p>	オムニバス方式
	演習Ⅲb	<p>健康障害を持つ高齢者が入院・入所する慢性期の病院、老人保健施設・特別養護老人ホームでおこなわれている高齢者への看護ケア等について学ぶ。さらに、高齢者に生じやすい身体的・心理社会的状態のアセスメント、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援についても学ぶ。本科目の科目責任者(単位認定教員)は藤田冬子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 藤田 冬子・14 笹谷 真由美/11回) 慢性期で治療・療養する高齢者のアセスメントとその人らしさを尊重した支援について教授する。 (14 笹谷 真由美・33 正田 美紀/4回) 慢性期で治療・療養する高齢者における廃用症候群・老年症候群の予防とケア、エンドオブライフケアについて教授する。</p>	オムニバス方式・共同

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	慢性高度実践 看護演習 I	<p>フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、面接法、ライフストーリー法などの知識と技術を活用し、慢性病者と家族を包括的にアセスメントする能力を養う。問診、視診、触診、打診、聴診の基本手技と検査結果の的確な解釈によって、対象者の安全・安楽に配慮した正確な身体情報の収集を行い、面接法やライフストーリー法、心理測定尺度の使用によって、心理・社会的側面と生活体験、病の体験を深く理解する技術を磨く。事例検討を通じて、家族を含めた慢性病者の包括的アセスメントの基本技術を修得し、慢性病の時期に応じた包括的アセスメントの実施方法を学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(13 横内 光子/2 回) 慢性病者の心理・社会面の測定尺度を用いたヘルスアセスメント技術と、急性増悪した慢性病者の包括的アセスメント技術について教授する。</p> <p>(19 藤原 由子/4 回) 脳神経機能、運動機能代謝・感覚機能のフィジカルアセスメント、面接法、ライフストーリー法による慢性病者の心理・社会面、生活体験、病の体験のヘルスアセスメント技術と、維持期にある慢性病者の包括的アセスメント技術について教授する。</p> <p>(23 元木 絵美/2 回) 慢性病者の家族のアセスメント技術と、診断・治療期にある慢性病者の包括的アセスメント技術について教授する。</p> <p>(24 奥井 早月/1 回) 慢性病の予防における包括的アセスメント技術について教授する。</p> <p>(25 鷺田 幸一/2 回) リハビリテーション期、ターミナル期にある慢性病者の包括的アセスメント技術について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介/3 回) 慢性病者のフィジカルアセスメントに必要な診察技術と系統的なフィジカルイグザミネーションを通じたアセスメント技術について教授する。</p> <p>(13 横内 光子・23 元木 絵美/1 回 (共同) 慢性病者と家族の包括アセスメントの特徴と課題について教授する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	慢性高度実践 看護演習Ⅱ	<p>慢性病者の症状緩和や、合併症・再燃・急性増悪を予防するための、症状マネジメント、アドボカシーや意思決定、患者教育などの概念やモデルに基づく支援技術と支援方法を学ぶ。慢性看護分野のなかで専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病者のウェルネスや QOL を高める支援に関するこれまでのエビデンスと今後の課題を明らかにする。また事例検討とロールプレイを通じて、効果的な支援技術の要素を考察し、自己の技術を評価する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(13 横内 光子／2 回) 慢性病患者の Wellness と QOL (Quality of Life) 維持・向上を目指した支援について教授する。</p> <p>(23 元木 絵美／5 回) 慢性病患者支援に関する主要概念を用いた支援の実践について教授する。</p> <p>(19 藤原 由子／1 回) 慢性病患者と家族に対する Cure と Care を統合した支援について教授する。</p> <p>(24 奥井 早月／2 回) 患者教育の理論を用いた慢性病患者と家族の教育的支援について教授する。</p> <p>(25 鷺田 幸一／2 回) 意思決定の概念を用いた慢性病患者の意思決定支援について教授する。</p> <p>(5 加治 秀介／3 回) 慢性病患者の薬物療法、医療処置の管理、ならびに治療中の副作用、副反応、合併症とその管理について教授する。</p>	オムニバス方式
	小児高度実践 看護演習Ⅰ	<p>小児の成長発達や生活環境を理解し、各発達段階におけるヘルスアセスメントについて学ぶ。発達段階に応じた適切なアプローチの仕方と高度実践として必要なアセスメントの視点と評価、査定するための方略や技術・技法を学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は内正子である。</p>	共同

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	小児高度実践 看護演習Ⅱ	<p>小児の成長発達、健康生活の維持促進に関する援助方法を学ぶ。様々な状況、健康課題をもつ小児のアセスメントおよび、小児を取り巻く外的環境への働きかけを含めた高度な援助方法を学ぶ。さらに、小児看護専門看護師として様々な健康レベルや状況に応じた効果的なケアについて考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 内 正子/8回) 乳幼児・学童の健康増進のための援助、家族への援助、急性期・慢性期の健康レベルにある小児と家族への援助を教授する。 (22 菅野 由美子/3回) 急性期の健康レベルにある小児と家族への援助、小児がん・エンド・オブ・ライフケアを教授する。 (16 丸山 有希/1回) 医療的ケアを要する小児と家族への援助を教授する。 (18 小路 浩子/3回) 家族への援助(児童虐待)、特別な配慮が必要な小児と家族への援助を教授する。</p>	オムニバス方式
	研究セミナー	<p>研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。また演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。</p> <p>(1 東 ますみ) 慢性疾患患者に対する遠隔看護による効果的な介入プログラムやシステムの開発、看護における情報システムの活用等の看護情報や遠隔看護に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(2 魚里 明子) 地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、学生の関心のある研究課題に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(3 宇賀 昭二) 国際保健学に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究 科目		<p>(4 内 正子) 慢性疾患のある小児と家族、在宅療養する小児と家族の看護に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(5 加治 秀介) 代謝性疾患患者の医療・看護に関する基礎知識と精査をもとに、心血管病予防に向けた研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(6 洪 愛子) 看護サービスの開発・評価・制度化や看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(7 下敷領 須美子) ウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する文献検討を基に自らの研究課題を明確にし、研究計画を完成させる。</p> <p>(8 玉木 敦子) 精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(9 中岡 亜希子) 看護教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(10 中村 隆) 医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(11 野並 葉子) 看護ケア・教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(12 藤田 冬子) 高齢者に関する基礎知識と精査をもとに、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求する課題などの研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(13 横内 光子) 看護・医療のサービスとしての側面に焦点をあて、サービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメントについて、基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p> <p>(15 田村 康子) マタニティヘルスケアや国際看護に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目	特別研究	<p>特別研究では、研究コースの各学生の専門領域における特定の研究課題について、研究課題を明確化し、適切な研究方法を選択して研究計画を立案し、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元について学ぶ。</p> <p>(1 東 ますみ) 慢性疾患患者に対する遠隔看護による効果的な介入プログラムやシステムの開発、看護における情報システムの活用等に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(2 魚里 明子) 地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、自らの研究課題について、研究計画に基づいて調査研究あるいは質的研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(3 宇賀 昭二) 国際保健学に関する疫学研究分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいた調査や実験、さらには臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(4 内 正子) 慢性疾患のある小児と家族、在宅療養する小児と家族の看護に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(5 加治 秀介) 代謝性疾患患者の医療・看護に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目		<p>(6 洪 愛子) 看護サービスの開発・評価・制度化や看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(7 下敷領 須美子) 女性の各ライフステージにおける健康課題や周産期の母子・家族への援助に関する分野において、自らの研究課題について研究計画に基づいて、調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(8 玉木 敦子) 精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(9 中岡 亜希子) 看護教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(10 中村 隆) 医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスの指導を補助する。</p> <p>(11 野並 葉子) 看護ケア・教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(12 藤田 冬子) 高齢者の看護に関する自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。特に、看護実践のケア方法の開発の新たな方向性を示す研究や、超高齢社会を迎え多様化する高齢者に焦点化し、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求するといった臨床研究に取り組む研究プロセスを指導する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究科目		<p>(13 横内 光子) タイムスタディやシステムシミュレーションの手法を用いたサービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメント分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(15 田村 康子) マタニティヘルスケアや国際看護に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスの指導を補助する。</p>	
	慢性高度実践看護課題研究	<p>専門看護師コースの学生が、専門とする慢性看護領域で、慢性病者の身体性や症状マネジメント、急性増悪期の予防など、実践や実習の中で見出した特定のテーマに関して研究的に取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果を論文にまとめる。課題探究を通して、慢性看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。</p>	
	小児高度実践看護課題研究	<p>専門看護師コースの学生が、専門とする小児看護領域での実践や実習の中で見出した特定のテーマに関して、研究的な取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果を論文にまとめる。課題探究を通して、小児看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。</p>	

授業科目の概要			
(看護学研究科看護学専攻 (D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	理論看護学	現代の医療・保健・看護を取り巻く状況は、グローバル化の急激な進展と連動した膨大な情報の拡散と集積の流れの中にある。その環境の中、人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のための看護実践に必要な中範囲及び小範囲理論の開発やその応用のために必要な概念開発、理論の構築、現象の意味解釈について学びを深める。その中で、理論開発の基礎、看護実践の知を創り出すコミュニティの育成と知の統合について学ぶ。本科目の科目責任者（単位認定教員）は野並葉子である。	共同
	看護学研究	看護課題を解決するための、研究デザインならびに方法を開発できる高度な研究能力を養う。量的研究法・質的研究法の理解を深め、特に量的研究法について、適切な研究手法の選択、リサーチプログラムの立案、検定・推計理論の理解、基本的検定な検定手法の利用、多変量解析の基礎から応用まで実践的に応用可能なように理解を深める。また、看護研究におけるシステマティックレビュー・メタアナリシスについて理解する。本科目の科目責任者（単位認定教員）は東ますみである。 (オムニバス方式／全15回) (1 東 ますみ／3回) 看護研究の概観、看護研究のパラダイム、看護研究の目的、研究例、倫理的配慮について教授する。 (13 横内 光子／6回) 質的研究法やシステマティックレビュー・メタアナリシス、量的研究法からリサーチプログラムの立案について教授する。 (10 中村 隆／6回) 統計学の理解、基本的推計統計手法の利用、多変量解析の基礎から応用まで教授する。	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	英語論文演習	<p>看護研究においても、英語の原著論文に慣れ親しみ、原著論文を読みこなす基礎能力を身につけることは極めて重要であると考えられる。そこで本科目では、研究に取り組む姿勢や論文の背景にある技術、さらには今後発展させるべき学問領域についての理解を深めることを目的として、各自の研究に関係する先行研究の英語論文や国際機関のレポートなどを検索・読解させる。さらに、その概要を発表することで、英語論文の作成能力や英語でのプレゼンテーションスキルの向上を目指す。本科目の科目責任者(単位認定教員)は宇賀昭二である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 宇賀 昭二/8回)</p> <p>英語論文の読み方や内容の理解の仕方を単に英文和訳ではなく、研究の中身の理解も含めて教授する。さらにプレゼンテーションのやり方や各自の研究テーマに沿った論文の検索と講読・発表の方法の演習を行う。</p> <p>(14 田村 康子/7回)</p> <p>任意の国や地域を1つ選び、その国や地域における研究テーマの状況に関する国際機関資料や研究論文、保健省資料を読み要約を作成する作業を行う。これらを通じて、学習した課題は、資料としてまとめ、発表する。</p>	オムニバス方式
専門科目	高齢者高度実践看護学特論	<p>超高齢社会を迎え、高齢者と家族の多様化が進み、従来の高齢者看護実践でも対応が困難な時代を迎えつつある。既存の老年学および老年看護学領域の理論および研究の動向を概観するとともに、超高齢社会における新たな高度実践看護の方法を開発するための方略を探求する。また、自らの関心を老年学および老年看護学の知識体系の中で位置づけ、高齢者と家族が向老期から終生期までに直面する健康問題への看護実践を開発するための基礎的研究能力を修得する。本講では、超高齢社会を迎える中で、コミュニティに暮らす高齢者と家族のQOL維持となるケアプログラムやケアモデルの中心となる概念および看護支援、高度実践看護師がおこなう高齢者ケアとして、フレイル対策などコミュニティでの予防活動、認知症高齢者への療養支援、高齢者介護家族への支援プログラム等を自律的・計画的に探求する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護ケア・教育学特論	<p>医学の高度化と IT の急激な進歩の中で、看護を取り巻く状況も急速に変化している。その中で、このような状況だからこそ、人間のこころと体を統合的に捉え、看護ケアをとおして疾病の予防、病気の回復、健康の増進、苦痛の緩和に働きかける看護実践の知識や技能、教育方法の開発が必要である。本講では実践科学としての看護学の特徴を踏まえて、看護学教育及び看護実践に関連する理論、概念、教育方法、その成果を検討し、実践モデルの開発や教育プログラムの開発につなげていく方略を探求する。オレムのセルフケア看護モデルやベナーのケアリングの概念と臨床知の創出と実践者の育成について学び、それらを持続していくための仕掛けとしての看護専門家コミュニティ育成の方略を検討し、考察する。本科目の科目責任者(単位認定教員)は野並葉子である。</p>	共同
	看護情報システム特論	<p>国は、疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けるために、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要であると述べている。情報通信技術 (ICT) を活用した看護実践である「遠隔看護」による看護援助技術の確立は、在宅医療の推進を支えていく鍵となるものである。本講では、遠隔看護を発展させるための基礎的能力を養うとともに、看護情報学に関連する概念や理論に関して理解を深めるとともに、多様化してきている看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、QOL の向上に貢献可能な情報技術を利用した支援方法について探求する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護政策・マネジメント特論	<p>保健、医療、看護を含むヘルスケアサービスを、サービス・サイエンスによる包括的なサービス理論の観点から理解し、利用者にとって価値の高い看護サービスの開発、提供システムの制度化、普及に向けた取り組みの方略と方術を学ぶ。サービス・オペレーション・マネジメントと政策・政治に関する基本的な理論を学び、今後の社会情勢の変化や保健医療福祉政策の全体像を踏まえて、看護サービスの需要とニーズの分析に基づく開発課題の設定と、課題解決の計画ならびに制度化の実践に必要な基礎的能力を養う。本科目の科目責任者(単位認定教員)は洪愛子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 横内 光子/6回) サービス・サイエンスの観点から、看護サービス、提供システム、およびそのマネジメントの基本的知識を教授する。</p> <p>(6 洪 愛子/6回) 政策・政治に関する基本的理論を教授し、看護サービスにおける開発課題の設定について考察する。</p> <p>(13 横内 光子・6 洪 愛子/3回) 看護サービスに潜む現象をサービス・サイエンスの観点から科学的に探求し、自らが関心のある新たな看護サービスと提供システムの開発について探索する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	精神健康看護学特論	<p>精神看護学の視点からテーマを探求するための基礎的能力を養う。特に、国内外における精神保健福祉の動向と課題について歴史的背景を含めて理解を深めるとともに、精神の健康問題に関連するさまざまな現象を理解するための理論や概念について、学習者の関心に応じていくつか分析的に理解する。また、精神健康問題をもつ個人や家族を対象とした支援モデルを批判的に考察し、モデルの特徴、適用など理解する。</p> <p>さらに、学習者が関心をもつ精神健康の問題現象に対する現在の対策・支援・ケアおよび支援システム等の有効性や課題について考察し、新たな援助方法等について検討する。</p>	
	看護病態学特論	<p>病態を正しく捉えることは適切な Care や Cure に不可欠である。一方、病態を正しく捉えるための知識・技術は指数関数的に増加している。このような時代にあつて、多くの知識を持つより、膨大な知識をいかに利用し、思考するかを学ぶことがより重要になっている。本講では、そのような観点から代謝性疾患を中心に新しい病態の知識・技術を得るための方法を学びながら、心血管病の背景リスクとなる代謝性疾患の進展予防への看護介入等について考察する。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	国際保健学特論	<p>グローバルな視点で南北間の健康格差を学ぶと共に、それらの原因となる背景要因を理解することを目標とする。すなわち、世界における著しい健康上の不平等と健康問題の質的転換を理解し、国際的な保健施策の開発や地域住民の健康向上のために必要な国際協力の課題と方法を学習する。具体的には、世界の健康問題の現状、住民参加型の健康啓発教育、国際保健に必要な支援技術、さらには開発途上国の健康課題に対する支援の実際等について説明出来るようになる。本科目の科目責任者(単位認定教員)は宇賀昭二である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 宇賀 昭二/8回)</p> <p>国際保健の過去と現在について概説するとともに、熱帯医学から国際保健、さらにはグローバルヘルスに至る展開を、PHCやヘルスプロモーション、あるいはミレニアム開発目標を交えて教授する。</p> <p>(14 田村 康子/6回)</p> <p>世界における母子や女性の健康問題を「異文化」の中でどのように捕らえ、理解してゆくのか。看護における国際協力の視点から本人の経験を踏まえて教授する。</p> <p>(3 宇賀 昭二・14 田村 康子/1回)(共同)</p> <p>全体のまとめを合同で行う。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
演習・研究科目	看護学演習	<p>(概要) 自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。</p> <p>学生は、専門科目(特論)で履修した分野の演習を1つ選択する。</p> <p>【高齢者高度実践看護学】</p> <p>(12 藤田 冬子)</p> <p>超高齢社会を迎え、高齢者と家族の多様化が進み、従来の高齢者看護実践で対応しきれない時代を迎えつつある。既存の老年学および老年看護学領域の理論および研究の動向を概観するとともに、超高齢社会における新たな高齢者看護実践を開発するための方略を探求する。また、自らの関心を老年学および老年看護学の知識体系の中で位置づけ、高齢者と家族が向老期から終生期までに直面する健康問題への看護実践を開発するための基礎的研究能力を修得する。本講では、コミュニティに暮らす高齢者と家族のQOL維持となるケアプログラムやケアモデルの中心となる概念および看護支援を自律的・計画的に探求する。</p>	オムニバス方式 又は共同

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
<p>演習・研究科目</p>		<p>【看護ケア・教育学】 (11 野並 葉子・9 中岡 亜希子) コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用のため、戦略的フィールド開発について検討する。研究課題の設定、研究課題を推進していくために必要な研究方法の選択、データ収集、研究倫理、フィールド開発について、実際のフィールドに参加し、その開発プロセスについて理解を深める。その上で、自身の研究課題を焦点化し、その研究課題を推進するためのコミュニティの育成、データ収集の方略など研究方法を修得する。</p> <p>【看護情報システム】 (1 東 ますみ) 入院患者ケアシステムの実際や遠隔看護の実際、テレコミュニケーションを使用した患者アセスメントなど具体的な方略や手法を学び、さらに発展的なシステムの開発を試みる。また、看護における情報管理の必要性、看護実践における情報の利用、情報管理上の問題などについて検討する。関心領域の研究課題を焦点化し、文献レビューやクリティークを通して、課題に対する研究方法論を議論し、研究計画書を作成するための知識と技術を修得する。</p> <p>【看護政策・マネジメント】 (13 横内 光子・6 洪 愛子) 学習者の関心のあるテーマについて、看護実践の有効性を、多様な保健医療福祉の専門職ならびに制度の設計者・実施者と共有できる形で可視化するための、概念の分析ならびに複数の測定・評価方法に関する理解を深め、評価・分析方法を修得する。そのうえで、テーマに関連する保健医療福祉制度や政策、その歴史と成立過程、現状と今後の予測・課題・展望を精査し、看護サービスとして効果的に提供するための方略と方術を検討する能力を養う。本科目の科目責任者(単位認定教員)は横内光子である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(13 横内 光子/8 回) 概念分析の方法ならびに、保健医療福祉領域で共有可能な概念の測定・評価方法について教授する。</p> <p>(6 洪 愛子/7 回) 実際の政策提言や制度化プロセスの精査・分析の観点について概説し、看護サービスの制度化に関する方略と方術を教授する。</p>	<p>共同</p> <p>オムニバス方式</p>

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
<p>演習・研究科目</p>		<p>【精神健康看護学】 (8 玉木 敦子) 自らの関心に基づき、研究で取り扱う精神健康の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。 まず、関心のある精神健康の問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。 関心のある精神健康の問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画を作成する。</p> <p>【看護病態学】 (5 加治 秀介) 心血管病のリスクとなる代謝性疾患等の病態理解につながる種々の計測方法について、実際の演習を通して理解を深める。また、病態進展予防への介入方法の実現可能性について検証する。これらに関連する文献を批判的に検討し、生じたリサーチクエスチョンから課題を解決するための実現可能な方法論(研究デザイン、分析方法、研究倫理など)を決定し、研究計画書を作成する。</p> <p>【国際保健学】 (3 宇賀 昭二・4 田村 康子) 国際保健学の実践には、その学問的背景の十分な理解に加えて、実践力と語学力が要求されるため、本演習での学習は英語論文演習での学習と表裏一体の形で進行させる。学生は、海外の International Journal な学術専門雑誌に投稿された原著論文を検索・読解する力を涵養すると共に、その内容の紹介や内容の活発な議論を通じて、各自の理解をさらに深化させる。また、実際に JICA の協力隊員や専門家経験者らにも演習に参加いただき、活動の実際を学ぶと共に、可能であればその活動の一端にも参加する。本科目の科目責任者(単位認定教員)は宇賀昭二である。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(3 宇賀 昭二/8 回) 国際保健活動が英語で推進できるよう、実践的な情報伝達能力を涵養する。その為には、単に語学力だけでなく、フィールドでの研究遂行能力の開発・向上を目指した教育を行う。</p> <p>(14 田村 康子/7 回) 各自の研究課題に関連する論文の紹介や討論を通じて、各自の理解を深化させるとともに、JICA の協力隊員や専門家の参加いただき、活動の実際を紹介してもらう。</p>	<p>オムニバス方式</p>

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
<p>演習・研究科目</p>	<p>看護学特別研究</p>	<p>(概要)</p> <p>学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の主体的な問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。</p> <p>作成した研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。</p> <p>収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。</p> <p>(1 東 ますみ)</p> <p>1 年次：多様化している看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、QOL の向上に貢献可能な情報技術を利用した支援方法、糖尿病患者など生活習慣病患者の自己管理支援や生活習慣病予防、在宅療養支援等に対する遠隔看護システム構築のエビデンスの検証に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(2 魚里 明子)</p> <p>1 年次：地域看護学領域における看護実践の可視化・評価、モデル化・理論化、特に生活習慣病予防・介護予防ならびにケアシステム構築に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
<p>演習・研究科目</p>		<p>(3 宇賀 昭二)</p> <p>1 年次：寄生虫あるいは細菌類などの感染症に関する基礎的検討、あるいは開発途上国における各種疫学調査に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(4 内 正子)</p> <p>1 年次：慢性疾患児の看護ケアや家族支援など、慢性疾患のある小児の発達段階に応じた支援方法の開発、在宅療養児の家族支援や多職種との連携に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(5 加治 秀介)</p> <p>1 年次：動脈硬化発症の背景疾患における生活習慣、ホルモン分泌動態、関連分子の遺伝子多型などを包括的に捉え、代謝性疾患を中心に個別的発症要因の解明から予防やケア開発の確立を目指す研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(6 洪 愛子)</p> <p>1 年次：感染予防、感染管理のシステムやヘルスケアマネジメント、教育支援および看護政策に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。</p> <p>(7 下敷領 須美子)</p> <p>1 年次：母性看護・助産学領域における子育て支援、セクシュアリティ健康教育に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目		<p>(8 玉木 敦子)</p> <p>1 年次：周産期のメンタルヘルス支援や看護介入に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(9 中岡 亜希子)</p> <p>1 年次：看護における教育指導者の育成プログラムや学習ニーズ、看護技術教育に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。</p> <p>(11 野並 葉子)</p> <p>1 年次：コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用を通して、看護実践に必要な概念開発及び実践理論構築に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>(12 藤田 冬子)</p> <p>1 年次：超高齢社会の中で健康問題に向き合う高齢者および家族への療養支援となるケアプログラムの開発や高度看護実践能力開発および育成に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。特に、超高齢社会で多様化する高齢者へのコミュニティにおけるフレイル対策、認知症をもちながらの治療・療養支援方法の可視、高齢者介護家族への能力向上プログラムなど、高齢者高度実践看護に関する研究課題に取り組む。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。</p>	

授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目		<p>(13 横内 光子)</p> <p>1 年次：看護実践をサービスの観点からとらえ、主としてシミュレーションの手法を用いたサービスの評価と改善、効率的なサービス提供システムの構築、効果的なサービス開発に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。</p> <p>2 年次：1 年次に作成した研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。</p> <p>3 年次：1 年次・2 年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。</p>	

学校法人吉学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸女子大学				神戸女子大学				
家政学部				家政学部				
家政学科	80	—	320	家政学科	80	—	320	
管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	
文学部				文学部				
日本語日文学科	60	—	240	日本語日文学科	60	—	240	
英語英米文学科	60	—	240	英語英米文学科	60	—	240	
国際教養学科	40	—	160	国際教養学科	40	—	160	
史学科	60	—	240	史学科	60	—	240	
教育学科	165	—	660	教育学科	165	—	660	
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	—	320	社会福祉学科	80	—	320	
健康スポーツ栄養学科	80	—	320	健康スポーツ栄養学科	80	—	320	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	90	—	360	定員変更 (10)
計	855	3年次 10	3440	計	865	3年次 10	3480	
神戸女子大学大学院				神戸女子大学大学院				
家政学研究科				家政学研究科				
食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	
食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	
生活造形学専攻 (M)	6	—	12	生活造形学専攻 (M)	6	—	12	
生活造形学専攻 (D)	2	—	6	生活造形学専攻 (D)	2	—	6	
文学研究科				文学研究科				
日本文学専攻 (M)	4	—	8	日本文学専攻 (M)	4	—	8	
日本文学専攻 (D)	2	—	6	日本文学専攻 (D)	2	—	6	
英文学専攻 (M)	4	—	8	英文学専攻 (M)	4	—	8	
英文学専攻 (D)	2	—	6	英文学専攻 (D)	2	—	6	
日本史学専攻 (M)	4	—	8	日本史学専攻 (M)	4	—	8	
日本史学専攻 (D)	2	—	6	日本史学専攻 (D)	2	—	6	
教育学専攻 (M)	4	—	8	教育学専攻 (M)	4	—	8	
教育学専攻 (D)	2	—	6	教育学専攻 (D)	2	—	6	
健康栄養学研究科				健康栄養学研究科				
健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	
看護学研究科				看護学研究科				研究科の設置(認可申請)
看護学専攻 (M)	8	—	16	看護学専攻 (M)	8	—	16	
看護学専攻 (D)	3	—	9	看護学専攻 (D)	3	—	9	
計	46		104	計	57		129	
神戸女子短期大学				神戸女子短期大学				
総合生活学科	120	—	240	総合生活学科	120	—	240	
食物栄養学科	120	—	240	食物栄養学科	120	—	240	
幼児教育学科	100	—	200	幼児教育学科	100	—	200	
計	340		680	計	340		680	